

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1292700091		
法人名	平和ヘルスケア株式会社		
事業所名	平和の里 グループホームこほく		
所在地	〒270-1121 千葉県我孫子市中峠2964-1 (電話) 04-7197-2890		
評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA		
所在地	〒270-1151 千葉県我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月27日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 2日 事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成19年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 7人, 非常勤 5人, 常勤換算	4.6人

(2) 建物概要 (職員は全員小規模多機能型居宅介護と兼務)

建物構造	軽量鉄骨 造り 併設型		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	光熱水15,000 円他
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間3年)
食材料費	朝食	295 円	昼食 550 円
	夕食	550 円	おやつ 105 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(2月2日現在)

利用者人数	6 名	男性 1 名	女性 5 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	1	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 84 歳	最低 63 歳	最高 90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	我孫子聖仁会病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所を運営する平和ヘルスケア株式会社は、東京証券取引所のビルを所有する平和不動産のグループ会社であり、グループの企業力には絶大な信頼がある。平成18年に地域密着型サービスが創設されたのを機に、同年8月に小規模多機能型居宅介護併設の1ユニットグループホームとしてオープンした。スウェーデンの認知症の介護理論を取り入れて、壁やフロアの配色にまで認知症の方の気持ちに配慮した、安らぎのある造りとなっている。地域の要請に呼応して比較的介護度の高い方や対応の困難な方も受け入れており、併設の小規模多機能型居宅介護の利用者と一緒に過ごしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設1年余りとなる為、今回の外部評価を事業運営全般についての反省の機会と捉え、管理者が中心となり計画作成担当等相談して自己評価票を作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に、2ヶ月に1度開催している。我孫子市職員や町内役員、民生委員等外部の方にも毎回多数参加願ひ、地域密着型サービスとして定着するよう貴重な意見を頂いている。施設を地域の老人会や自治会に開放して、地域との交流の促進を図るアイディアも運営推進会議で頂いたものである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居時に詳しく希望や意向を聴くとともに、面会時に家族と気軽に何でも話をする中で聴き取り、職員会議等で共有して対応している。今回のアンケートが初めての満足度調査であり運営の参考にしたいと考えている。重要事項説明書に当グループホーム並びに行政の苦情受付窓口を明記しているが利用は少ない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域との連携は設立の狙いでもあり特に大切に考えている。介護相談コーナーを設けたり、施設を地域の自治会や老人会に開放して理解を深めるとともに交流を図っている。管理者や職員は老人会や生涯大学の要請を受けて、介護保険制度や福祉用具等についての講師を務めることもある。また、行事等にはボランティアも受け入れている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人は介護事業を地域貢献と位置づけ、「利用者を家族の一員として生活習慣を理解し、24時間朗らかに生活出来るよう支援する」旨の5箇条の「平和の里宣言」を作成し理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「平和の里宣言」は玄関の大きいパネルに掲示し、来訪者にも目に留まり易く工夫している。また、職員会議や運営推進会議等でも「平和の宣言」について説明し、理念に沿ったサービスの提供に心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	新しい事業所だけに地域住民との連携を特に大切に考えている。介護相談センターを設けたり、施設を地域の自治会や老人会に開放して理解を深めるとともに交流を図っている。行事等にはボランティアも受け入れている。	○	現在各種取り組みをしているが、地域での認知度を高めることが当面の課題である。取り組みの成果を期待するとともに、地域住民向け「事業所だより」の発行などのアプローチも有効かと思われる。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が中心となり介護支援専門員等と相談して自己評価票を作成した。初めての外部評価であるが、開設1年余りとなる為運営全般についての反省の機会と捉えて取組んだ。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と一緒に2ヶ月に1度開催している。毎回我孫子市職員や町内役員、民生委員等外部の方にも多数参加願ひ、地域密着施設として定着するよう貴重な意見を頂いている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人は市内で早くから複数の介護事業を展開していることもあり、行政とのコミュニケーションは良い。地域密着型サービスの運営につき日常的にアドバイスを頂き、又今年から我孫子市の介護相談員が来ている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月請求書送付時に個人別にB5版の書式で、健康管理や暮らしぶり等につき報告を行なっている。家族の面会時には都度状況を報告している。	○	家族への報告は丁寧に行なっているが、写真入の「事業所だより」の発行等、もう少し楽しい雰囲気を取り入れた報告方法も検討願ひたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に詳しく希望や意向等を聴くとともに、面会時に家族と出来るだけ気軽に話し合い、意向を職員会議等で共有して対応している。今回のアンケートが初めての利用者満足度調査であり運営の参考にしたいと考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	サービス開始後1年余りで、利用者にも動揺を与えるような異動や離職はなかった。非常勤職員にはそれぞれの事情に配慮して出来るだけ働き易い勤務体制とし、離職がないように努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	幹部職員の育成は法人の人事処遇制度に沿って行っている。管理職研修や新人研修等は制度化されており、他の研修は非常勤職員を含め申請により出張扱いで受講できる。事業所内研修は職員会議等の時間に行なっている。資格取得の実技実習には先輩や仲間と教えあう等職員間のコミュニケーションも良い。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の運営する市内のもうひとつのグループホームとは随時交流を図っている。他の同業者との交流は少ないが、職員を我孫子市主催の研修会等に参加させている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人と家族にホームに遊びに来てもらったり、二泊三日の無料体験入居などで、職員や雰囲気を見ていただいている。また、管理者が自宅に伺うなどで顔馴染みになってもらい、徐々にホームに馴染んでいただけるように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	編み物の得意な方には手袋やマフラーの編み方、レザークラフトの得意な方には眼鏡ケースの作成方法などを教えてもらったりしている。また利用者が室内では言い出せないことも戸外での散歩の時に話してくれたりして支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向表出の難しい方は、行動や仕草などから、或いは時間を置いて聞く等により思いや意向の把握をしている。帰宅願望等対応が困難な場合は、気持ちの受け止めをして安心感を持ってもらえるよう支援している。	○	よく対応しているようであるが、利用者家族アンケートの評価ではその満足度は高くない。更なる取り組みに期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居前や入居後の本人や家族との面談で意見や希望を傾聴しニーズを捉え、職員の意見など取り入れ、今までの生活が継続できるように利用者本位の介護計画を作成し、家族に説明している。	○	介護計画についてのアンケートでは、説明を受けたが話し合っていないとの回答が寄せられている。介護計画についての説明方法等についても検討願いたい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは3ヶ月に1度であるが、状態の安定してない利用者は2週間程度で見直しすることが多い。日々のケアの中で、利用者の心身状態の変化の把握につとめ、変化が見られるときは、職員、看護師、介護支援専門員と話し合い随時現状に即した介護計画を作成し、家族に説明している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の小規模多機能の広いスペースを利用して、お楽しみ会などの行事を開催している。また、職員が自治会や老人会の要請で介護保険の説明をしたり、車いすの利用や福祉用具についての相談に応じたりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医の受診は家族で対応している。緊急時の受診には職員が同行し家族に受診内容を伝えている。非常勤看護師が施設の近くに住んでおり、緊急時は何時でも対応して利用者の安心を得ている。協力医療機関や歯科もあり協力体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時に事業所の方針を話している。最後まで居させて欲しいと希望する利用者及び家族の思いに対しての明確な指針は出来ていない。	○	高齢の入居者も多い為、入居者の重度化や終末期に備えて、対応の検討をお願いしたい。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護方針は入社時に職員に説明を徹底するとともに玄関に掲示し、利用者との契約書等にも明記している。誇りを傷つけるような言葉遣いには特に気を付け友達言葉は使わないなど、利用者一人ひとりに丁寧に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	編み物をしたり、本や新聞を読んだり、散歩や買い物に行ったりするなど本人の希望を尊重し支援している。介護度の高い方や不穏の時には寄り添う、言葉をかけるなど穏やかに過ごしていただけるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食は系列の有料老人ホームで調理した同じ食事を取り寄せ提供しているが、好き嫌いがある方には違う食品に代えている。出来る方には準備や後片付けなども職員と一緒にこなして、食事がより楽しいものになるよう努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回が基本で、入浴時間は午前・午後とも可能である。浴室は個室であるが広くて気持ちよく入浴が楽しめる設備である。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	草花の水やりや観察係、茶碗を下げたり掃除の手伝いなど能力に応じた役割の支援をしている。楽しみごとでは布佐公園の花見や、印西に白鳥を観に行ったり、牧場に行ったりとイベントのお出掛けを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天の時は外気浴と歩行支援を兼ねて散歩をしている。近所の方にあいさつして顔馴染みになってもらうようにしている。2ヶ月に1度は車で一緒に買い物に行っており戸外に出かける機会が増えるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組んでいるが、交通量の多い道路の角地という立地上から、利用者の安全確保のために、止むを得ず玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で7月に避難訓練を実施したほか夜間訓練も実施した。玄関、職員詰め所に避難コースが示されており、消火器や設備の点検も行った。運営規定に非常災害対策について明文化している。管理者は消防団員であり災害対策には特に力を入れている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日記録している。食事の前に口腔体操や嚥下運動をし、食事が美味しく食べられ量や栄養バランスが確保できるよう支援している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の強い日差しはカーテンで調節したり、照明は間接照明を用いたり時間帯によって調節している。居間から続くウッドデッキは季節により夕涼みや日向ぼつこの場となり、廊下の要所要所には洗面所が設備され、天井には天窓の明り取りが備えられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者が入居前から使用していた馴染みの箆笥や小物、或いは仏壇などが置かれ、入居前からの生活が違和感なく継続して送ってもらえるよう工夫している。壁やフローアの配色に迄認知症の方の気持ちに細かく配慮した造りとなっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。